

2026.8.31 午前 7:46 >

高齢者転倒リスク AI予測



サービス概要を説明するジューCEO(左端)
＝島田市の養護老人ホーム「ぎんもくせい」

サービス開発
米 企 業

島田の介護施設視察

高齢者の転倒リスクを予測するAI見守りプラットフォーム「Buddy」(パディ)を展開する米国シリコンバレーのスタートアップ(新興企業)「Liv

eFreely(リブ・フリーリー)」のアーサー・ジューCEO(最高経営責任者)が26日、島田市の養護老人ホーム「ぎんもくせい」などを訪れた。介護現場の現状を確認し、市内事業者との連携やサービス導入の可能性を探った。

パディは、サービス登録済みのウェアラブル端末を装着した利用者の異常を、家族や介護者などが所有するスマートフォンに通知する仕組み。AIによる利用者の歩行パターン分析・学習や転倒の予測・検知、服薬管理、位置情報把握機能も備える。国内では現在、福岡県内で実証実験を実施中で、予防に主眼を置いたサービスで高齢者の健康寿

命増進を支えるとともに、介護事業者の負担軽減にもつなげる。

ジューCEOは、施設を指定管理する一期一会トータルケア(同市)の丹野啓二社長(54)らに案内され、入居者の部屋や食堂、集会室などを視察。日本独自の介護保険制度についても説明を受けた。視察後には市産業支援センター「おびサポートUS」にも立ち寄り、海外事業者として初めて登録した。

丹野社長は「従業員が介護業務に従事する時間が減ること、より高品質なサービスが提供できる」と機能を評価。ジューCEOは「テクノロジーの力で高齢化率が高い日本の社会課題解決に貢献したい」とコメントした。

(島田支局・葉袋貴信)